

# 大浦中学校教育研究計画

## 1 研究主題

「小中連携による確かな学力の向上及び主体的・対話的に学ぶ児童・生徒の育成を図る」  
～授業と家庭学習を連動させた全教科での指導の工夫と改善を通して～

## 2 主題設定の理由

本校は、全校生徒数89名、学級数6クラスの小規模校である。佐賀県南西部に位置して長崎県と隣接し、多良岳山系の山間部と有明海に面した沿岸部を有する豊かな自然環境に恵まれている。第一次産業や地場産業の従事者の比率が高い。学校と地域のつながりが強く、学校行事等へ協力する意識が高い地域である。家庭生活においては、父親が長期にわたって県外での仕事に従事している家庭も多くあり、家庭の教育力の向上や学習習慣の定着については不十分な傾向にある。また、人間関係が固定化されてしまい、人間関係における過去のつまずきを解決できないでいる生徒が少なくない。これらのことが学力の向上を停滞させる一因となっている。

本校の多くの生徒は素直であり、教師の指導に対して真面目に取り組む姿勢を持っている。反面、自分に自信が持てず、自己肯定感が低く、自ら課題に対して解決していこうとする積極的な学びの姿勢に乏しい傾向が見られる。

昨年度『授業づくり』においては、西部型授業の「考える」「考え合う」場での話し合い活動に重きを置いて、主体的・対話的な学習ができるよう工夫することや「振り返り」の時間を確保し、OPPA（One Page Portfolio Assessment：1枚ポートフォリオ評価）を活用することで確かな学力の定着を図ることを企図し、実践を進めてきた。OPPAの活用により、生徒がどのように学習内容を理解したかを判断できるとともに、教師自身も授業評価をすることで指導力の向上につながった。『家庭学習』においては、アンケート調査の結果から生徒の学習傾向や学習時間不足の実態を把握し、学年ごとに家庭学習目標時間を明確に設定したうえ、自学ノートの活用方法について指導し、家庭学習時間を増やすことができた。

本校区では、平成28・29年度に「佐賀県児童生徒の活用力向上研究指定事業」の委嘱を受け、『小中連携による活用力を身につけた児童・生徒の育成』に取り組んだ。その結果、小中学校が連携して西部型授業の実践を行い、義務教育9か年を意識した教育に取り組み、活用力を高める手立ての充実を図ることができた。

この経験値を基軸とし、本年度は家庭学習の習慣づくりと円滑な学びの継続性を支える授業改善および適切な授業評価の実践を通して確かな学力の向上及び主体的・対話的に学ぶ児童・生徒の育成を図っていこうと考える。

## 3 研究の目標

小中学校において、主体的・対話的に学ぶ児童・生徒の育成を図るとともに、授業の振り返りを工夫し、家庭学習と連動させていくことで学力の向上をめざす。

## 4 研究の内容と方法

### (1) 研究の内容

- ア 授業改善リーフレット(授業づくりのステップ1・2・3)の活用による授業の工夫と改善
- イ 「OPPA」(1枚ポートフォリオ評価)を実施することによる「振り返り」の工夫と改善
- ウ 「振り返り」と連動させた家庭学習での自学ノートの工夫と実践
- エ 小中が連携した家庭学習リーフレットの作成と利用

(2) 研究の方法

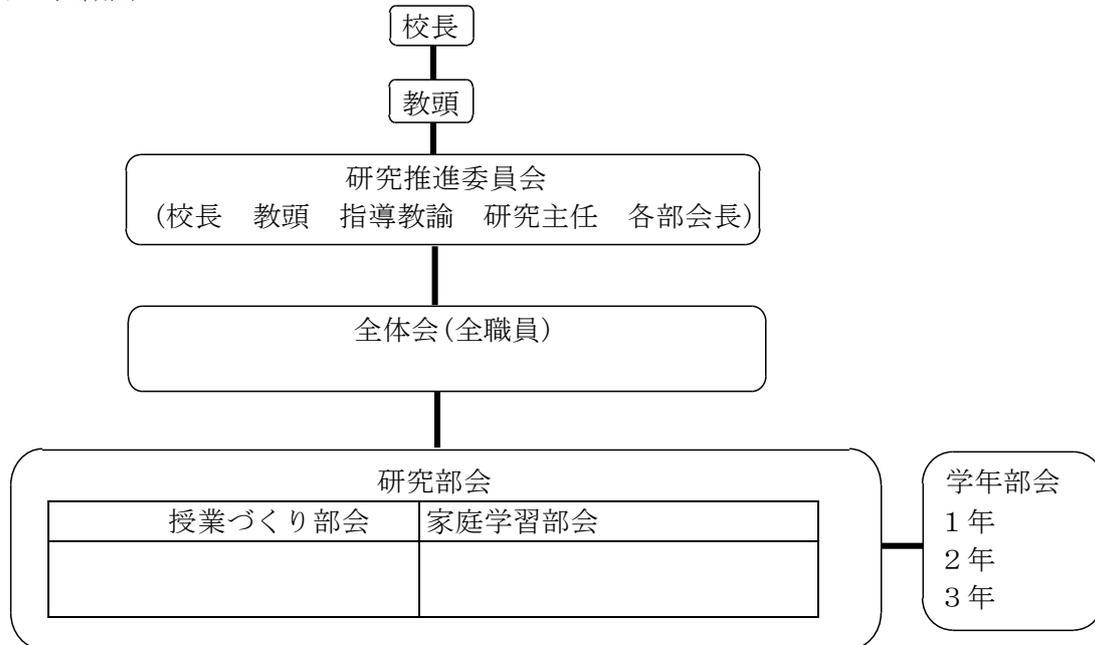
ア 研究組織

推進委員会のメンバーは、管理職、指導教諭、研究主任、各部会長とし、全教職員は次の部会のいずれかに所属する。

①授業づくり部会：主に授業の工夫と改善に関わる部会

②家庭学習部会：主に家庭学習の工夫と改善に関わる部会

イ 組織図



5 研究の実際

(1) 授業づくり部会

ア 「考える」「考え合う」場面を積極的に設定した授業づくり

イ OPPシートを用いた振り返りの実践

(2) 家庭学習部会

ア 家庭学習アンケートの実施と分析

イ 家庭学習リーフレットの作成(生徒用)

ウ 自学ノートの取組の充実